



『一人一人が輝き、笑顔あふれる学校 ～ 子どもも教師も輝く学校 ～』

本日、学校に子どもたちの元気な声もどおり、2学期がスタートできたことをうれしく思います。

以下に、始業式の児童代表のことはを紹介します。

一学期の頑張りとは反省、そして二学期に向けて 六年 児童代表

僕が一学期に頑張ったことは委員会活動です。僕は図書委員会で委員長をしています。初めての図書委員会で、始めはやり方が分かりませんでした。ですが、四・五年生にも初めて図書委員会に入った人がいたので、最高学年としてお手本を見せようという気持ちで取りくみました。委員会が始まったばかりの頃は、パソコンの使い方も分からず、委員会の仕事がありすぎていってませんでした。このままでは最高学年としてお手本を見ることができないという思いから、中休みと昼休みの活動をしていねいに行いました。だんだんと委員会の仕事に慣れ、今ではスムーズに活動できるようになりました。また、分からない人や忘れている人にも声をかけることができるようになりました。

できることが増えた委員会活動ですが、反省もあります。それは、自分の気持ちを抑えることができなかったことです。委員会活動では、自分の思い通りに進まないことがあります。先生に相談してもなかなか解決できない問題もありました。その時つい、言葉や行動にいらいらした気持ちを出してしまいました。これからは、自分だけでどうにかしようとするのではなく、友だちと積極的に話をして、みんなで解決に向かえるように活動をしていこうと思います。

委員会活動のほかにも、2学期頑張りたいことがあります。それは、縦割り活動です。縦割りそうじでは、下学年が分からなかったり、困っていたら声をかけていきます。最高学年としてお手本となる言葉遣いや行動を見せていきたいです。また、縦割り遊びでは、ルールの見直しや場所の確認など、全員が楽しく遊べるような活動を考えます。そして、楽しく、仲良くなるような声をかけていきたいです。



<9月の行事予定>

2日(水)身体測定5・6年、3・4年

3日(木)身体測定1・2年

7日(月)委員会活動 5・6年水泳学習開始予定日

9日(水)地域学校保健委員会、13:30頃全校下校

14日(月)1～4年プール学習開始予定日

28日(月)クラブ活動

<「川原公園前バス停」横の横断歩道への押しボタン式信号機設置要望書>

7月31日(金)に PTA 全役員会が開催されました。その際、役員の皆様に報告をしたところですが、川原小学校運営協議会「見守る会」メンバー全員の連名で、6月に大浦警察署長へ、次ページの「川原公園前バス停」横横断歩道への押しボタン式信号機設置要望書を提出いたしました。要望が実現することを願っているところです。

貴署におかれましては、日頃より川原小学校区の安全な交通環境づくりのため多大なご尽力をいただき、深く感謝申し上げます。また、当該地域におきましては、これまでに行政および貴署のご配慮により、歩道の整備、歩道へのガードレールの設置、さらにはスクールゾーンの設定など、児童の安全のための様々な対策を講じていただきましたことに、地域住民・保護者一同、心より御礼申し上げます。しかしながら、これらの手厚い安全対策を施していただいた現在におきましても、児童をはじめとする歩行者が「道路を横断する際」の危険性については、依然として解消されておりません。

そこで私たちは、「川原公園前バス停」横の横断歩道におきまして、児童や地域住民が安全に横断できるよう、押しボタン式信号機の設置を強く要望いたします。

当該箇所は、子どもたちの安全な暮らしを脅かす非常に危険な状態にあります。主な理由は以下の通りです。

1.これまでの対策の限界

現在、歩道の拡幅やガードレールの設置により、歩行者が「歩道を歩く際」の安全性は向上いたしました。しかし、いざ横断歩道を渡るとなると、スクールゾーンの注意喚起だけでは車両の進入や速度を抑制する決定的な効果が得られておらず、道路を横断する際の危険に対しては、現在の対策だけでは効果がほとんど及んでいないのが実情です。

2.通学路および学校の近隣であること

当該横断歩道は川原小学校のすぐ近くに位置しており、児童の主要な通学路および生活道路となっています。日常的に「小学生だけで横断する」機会が非常に多い場所です。

3.バス停の存在による危険性の増加

横断歩道のすぐそばには川原公園前バス停留所があり、停車中のバスが死角となり、後ろから来た車両が横断中の児童に気づくのが遅れるといった状況が度々発生しています。

4.見通しの悪さと車両の過度な速度

当該道路はカーブしていることにより、為石方面に向かう車線側から川原小学校側に横断しようとする歩行者から見通しが悪い構造になっています。また、運転手からは、横断歩道に近寄らないと道路横断者がいることに気づきにくい構造になっています。それにもかかわらず、横断歩道付近の道幅が広がっているため、車両がスピードを出したまま走行してくる傾向があります。

5.児童を見守る大人の減少

川原小学校は急激な児童数の減少によりすべての学級が複式学級となりました。PTAの家庭数も大幅に減少し、今年度（令和 8 年度）より、何十年も続いて組織されていた川原小学校区交通安全母の会が無くなり、保護者による横断歩道を渡る児童の見守りがなくなりました。また、4 年前と比べ川原小学校の職員数は 4 名減となりました。学校自体に職員が手薄な中、朝の立哨に職員を配置することが困難となっています。加えて、令和 8 年 5 月に、勤務時間外の朝の時間の立哨は、学校以外が担うべき業務であると市教委から示されました。見守る大人が減少しており、児童の安全の確保がさらに困難になっています。

以上のように、現在の状況は「小学生だけで横断することが多い」にもかかわらず、「見通しが悪く、車がスピードを出しやすい」という、いつ重大な人身事故が起きてもおかしくない悪条件が重なっております。子どもたちが悲惨な交通事故に巻き込まれるのを未然に防ぎ、安心して学校に通える環境を作るためには、押しボタン式信号機の設置による安全確保が不可欠であると考えます。地域の切実な願いをご理解いただき、早期に信号機を設置していただけますよう、心よりお願い申し上げます。